

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	看護学概論	1	30	1 年次	4 月	大野美穂
授業概要 看護とは何かを追求していくための基盤となる考え方を理解する。看護の対象である人間を健康障害の有無を問わず「生活者」として理解する。また、看護の歴史の変遷を理解するとともに、看護の主要概念をとらえ、保健医療福祉チームにおける看護の役割を学ぶ。						
到達目標 1.看護の本質、看護の役割と機能を学ぶ。 2.看護の対象としての人間、生活と健康について理解する。 3.看護活動の場、保健医療福祉の連携について理解する。 4.看護理論を理解する。 5.看護の歴史、専門職としての看護師に求められる姿勢について学ぶ。						
使用教材 テキスト：①基礎看護学①看護学概論 ； メヂカルフレンド ②湯楨ます他：看護覚え書き；現代社 ③V・ヘンダーソン：看護の基本となるもの；日本看護協会出版会 ④ケースを通して やさしく学ぶ看護理論；日総研 ⑤看護六法,新日本法規 参考文献等：竹尾恵子監修：超入門 事例で学ぶ看護理論；学研 国民衛生の動向、財団法人厚生統計協会						
評価 筆記試験、課題レポートに出席状況や授業中の態度も加味して総合的に評価する。						
授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
2 時間・1 回	1.職業としての看護 2.看護の歴史 F. ナイチンゲールの業績					講義
4 時間・2 回	3.看護とは 1)看護の本質、目標、機能 2)看護師(看護学生) に求められる姿勢 3) 看護技術とは 4) 看護の主要概念					講義
	4.看護と健康 1) 健康と生活 2) 健康の概念 3) 健康のレベルと看護 4) 環境の変化と対処規制					講義
4 時間・2 回	5.看護理論 1) ナイチンゲール					講義
4 時間・2 回	6.ライフスタイルと日常生活 7.各ライフステージにおける看護 8.健康障害を抱えた人の理解 9.看護の対象としての家族 10.看護の対象としての組織、地域					講義

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	看護学概論	1	30	1 年次	4 月	大野美穂
時間・回数	授業内容					方法
4 時間・2 回	11.看護理論 1)看護理論概観 2)看護理論の中心概念 3)看護の諸理論 (1)ナイチンゲール (2)ヘンダーソン (3)オレム (4)ペプロウ (5)ロイ					講義 演習
1 時間・1 回	12.保健・医療・福祉の相互連携と看護職の役割 1)医療および看護の動向 2)看護をめぐる制度と政策 3)多様化する活動の場、多職種間との連携					講義
4 時間・2 回	13.看護の実践方法 1)看護活動の特性 2)看護実践の方法としての看護過程 3)看護過程の構成要素 4)看護過程の展開と看護師の責任					講義
2 時間・1 回	14.専門職としての看護の役割 1) 患者の目線に立った質の高い看護の提供 2) サービスとしての看護、ホスピタリティの概念 15.看護の専門職化 1)アメリカにおける看護の専門職化 2)日本における看護の専門職化 3)看護教育の変遷 4)キャリアパス制度					講義
4 時間・1 回	17.看護倫理					講義 演習
1 時間・1 回	筆記試験					
備考 ○授業内容により適宜課題を課すことがある。 ○テキスト②「湯槇ます他：看護覚え書き；現代社」は授業計画 3（予定）までに各自読むこと。 ○グループワークや演習を通して自分の意見を発表し、他者の意見を取り入れる中で考えを深めていくことをねらいとする。						